

2007.2月号

NIPPON GOOD PARTS



平成19年 理事長年頭所感

自動車リサイクル業界において 中心的な役割を果たし、自動車の循環型社会で 認知されるNGP協同組合を目指します。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 青木勝幸

明けましておめでとうございます。

平成19年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国経済は、デフレから脱却しつつ、全体としては明るさが見えてきたと言われておりますが、企業活動と国民経済のズレを感じる実感のないものとなっています。

また、原油価格の高騰は、あらゆる業種を直撃しており多くの中小企業は依然として厳しい現実に晒されていると言えます。

自動車業界では、新車販売の減少に歯止めがかからず、登録車が371万5千9百

台、軽自動車は202万3千6百台と軽高登低の傾向が一段と強まる厳しい一年でありました。

これは、リサイクルパーツ業界にとって数年後に排出される車両の量と質において大変な懸念材料となっております。

自動車解体業界では、法施行後2年が経過しましたが、使用済み自動車の流通形態が大きく変動し、仕入台数の減少や価格競争の激化など一層のコスト高をまねいております。

私どもNGP協同組合は、グループ時代を通じて創立20周年を迎え、創業の地である九州福岡において大石名誉顧問を迎え記念総会を行なうことが出来ました。

ご来賓各位には、遠方にもかかわらずご臨席賜りましたことに対し改めて御礼申し上げます。

この節目に、これまでの20年を草創期とし、成人式を迎えたこれからは青年・成長期と位置づけ皆様からも更にご指導いただきながら、リサイクルパーツの認知度向上の為の啓蒙活動など業界の発展に務めてまいりたいと思います。

昨年策定したMS50中期戦略は、激変する環境変化を乗り越えNGP商品やサービスそして組合員が顧客から選ばれ続けることが出来る戦略集団への脱皮を基本コンセプトとし、掲げた課題の一つひとつに着手、取組んでまいりました。

その一つに、自動車整備・車体整備事業者団体とのリサイクルパーツ供給シス

テム「NGPダイレクト」を構築しました。これにより、リアルタイムの部品検索や見積作業の迅速化など整備事業者の利便性向上にお役立ち出来るものと期待しております。

また、一般ユーザー向けのクルマ買取サービス『くるマック』事業をスタートさせ、1年の経過ではいくつかの課題はありますが、初期の目的を果しつつあると思えます。

この他、パーツ供給力を一層高め、整備事業者の利便性を果すべく「生産登録会員制度」を新設しました。

本年は、このMS50中期戦略の実効をあげる仕上げの年と位置づけ、支部会、委員会、理事会の連携を更に緊密にし、組合活動を前進させていく所存です。

今後も、業界団体など組織間での協同と連携を一層深め、中心的な役割を果たさなければならないと自覚するとともに、自動車メーカー、自動車整備関連業界、損害保険業界、リース会社等との更なるご協力関係を深めさせて頂きながら、自動車の循環型社会で認知されるNGP協同組合でありたいとの想いを強めているところであります。

組合員の皆様には、一層のご理解とご協力をお願いいたすとともに、関係ご当局をはじめ関係各位のご指導ご鞭撻を切にお願いいたしたく存じます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りし新年の挨拶といたします。

一般ユーザーへのPRを強化し、より一層の制度の浸透を図る!!



経済産業省 自動車リサイクル室長
中石 齊孝 大臣官房企画官

自動車リサイクル法が完全施行となり2年が経過しました。システムの運用は概ね順調のようですが、諸問題も出てきています。これらの問題解決には行政だけでなく、自動車に携わる全ての人々が改めて自動車リサイクルの意味を考える必要があります。そこで今月号のNGPニュースでは経済産業省自動車リサイクル室長 中石齊孝企画官より自動車リサイクルに携わる皆様にメッセージをいただきました。

1. 自動車リサイクル法、完全施行から2年を振り返って

最初にまず皆様のご理解、ご協力によってこの制度が概ね円滑に導入されつつあることに感謝申し上げます。リサイクル料の預託金につきましても、これまで累計で7千万台（2006年11月末現在）金額にして6,800億円の預託をいただくことができました。また移動報告につきましても、ここまで前年同月比1~2割増で推移しており、最終的に18年度は350万台に到達するのではないかと考えております。

ここまで自動車リサイクルシステムが順調に立ち上がってきたのは、自動車メーカー、販売業、整備業、解体業、破砕業等々、12万を超える関係事業者の方々が法律を理解し、そして遵守していただいたことのおかげと思っています。

例えば、整備事業者の方々は、リサイクル料金の車検時預託にご協力いただきました。また、リサイクル制度から生み出される中古部品のユーザーとしても、ご協力いただいております。

2. ユーザー理解の促進について

これからは自動車のリサイクルをより深く社会に浸透させるため、一般ユーザーへの啓発活動を強化していきたいと考

えています。リサイクル料金の預託についてはユーザーのご理解をいただきましたが、頂いた料金がどのように活用されているのか？最終ユーザーとしてどういったことを行うべきか？自動車部品のリサイクルとは何か？こういった問いかけを次の一歩として、踏み出していきたいと思っています。

昨年11月に、我々も新橋の街頭で自動車リサイクル・中古部品に関するチラシを行き交う方々に配りました。自動車解体業界、自動車整備業界の方々にチラシ配布にご協力いただきました。

街頭で感じましたのは、リサイクルへの関心は、ユーザーの性別や年代で差が大きいことでした。女性、特に若年・中年層の関心が低いということを感じました。このことを踏まえ、若年層、主婦層に向けて全国310カ所の自動車教習所で普及活動を始めました。これは教習所ロビーのテレビを使って、使用済自動車の不法投棄やユーザーと業者のやり取りシーン等の映像を流し、教習生に現実的な問題として感覚に訴えるというものです。

これら以外にも昨年12月のエコプロダクツ展、今月1月は経済産業省本館ロビーでも解体部品等の展示も行っております。他には移動体を使ったPR活動としてラッピングバスを東京・名古屋・大阪・福岡・沖縄で走らせています。ラッピングバスは子供の目にも止まりますし、社会一般広い層の方の目に留まりますので幅広い効果を期待しています。違法業者に対しても心理的な抑止力になればとも考えています。

今後とも、様々な工夫を凝らした広報を行ってまいりたいと思いますので、皆様も引き続き協力をお願いします。

3. 消費者に選ばれる産業を目指して

自動車リサイクルの促進のためには、面ではリユース部品をいくら強調しても足りません。しかし、ユーザーの視点から見れば、補修部品には純正部品、優良部品、それからリユースの中古部品とリビルト部品が同列に並ぶはずです。

今まで、ユーザーの多くは整備・修理工場さんに部品の選択も含めて全てお任せしていました。今後は、自己責任と消費者の選択という観点で、ユーザーが自分で補修部品を選ぶということが増えてくるのではないかと考えています。

したがって、私どもとしては、ユーザーに「いろいろな補修部品があること」を理解していただき、ユーザー自らがどの部品で車を整備・修理するかを判断していただくことが必要であり、その際にリサイクル部品をいかに選択してもらえるかが大事なことで考えています。

昨今のように消費者の眼がますます厳

しくなると、顧客から信頼を獲得できる企業、環境問題への貢献によって社会的信用を得られる企業、ひいてはそうした産業のみしか生き残っていけないのではないかと感じています。自動車リサイクル産業がそうした消費者から選ばれる産業となるように、皆様と協力しつつ、努力してまいりたいと思います。

4. 一時抹消登録中車両の調査を開始

自動車リサイクル法が満2年を超えるにあたって、引き続き、関係されている業者の方には、それぞれの役割をしっかりと果たしていただきたいと思います。我々としまでも、法律が適正に執行されるように、様々な努力、工夫を重ねてまいります。

直近では、今月1日に一時抹消登録中の車両に係る実態調査を開始しました。これは、18年3月時点で一時抹消登録となっていた車両について、現時点でいかなる状態になっているかを調べる調査です。任意に抽出した車両の現状について、その登録上の所有者に対して、保有、中古登録（年月）、転売（年月）、輸出（年月）、解体（年月）の中から回答いただくものです。

今回は大量保有者が中心となりましたが、小規模保有者であっても陸運支局毎に任意に抽出しております。いただいた回答結果を集計して、全体の動向を把握したいと思っています。

また、未回答の場合も含めて、ご回答内容によっては、再度、車両法、自り法その他法令に基づく調査を行うことも予定しております。

5. 自動車リサイクルに携わる全ての方々にメッセージ

～「正直者が報われる」制度～

一時抹消登録中の車両の現状調査の他にも、廃車ガラ輸出時の移動報告の提示、フロン・エアバッグの装備相違報告に係る調査等々、今年も法律の適正な施行に向けて今後とも手を緩めることなく、施策を講じてまいりたいと思います。

特に法律のグレーゾーンの明確化を地道に行うことも含めて、違法行為、不適正行為を排除して、この自動車リサイクル法を「正直者が報われる」制度にしていきたいと考えております。

皆様におかれましては、引き続き、法律の適正な執行にご協力いただきたいと思います。そしてさらに、自動車リサイクルという社会システムを確立するために、使用済自動車をリユース部品として、あるいは資源として、しっかり再資源化していただきたいと思っています。

自動車リサイクルのシステムを構築することが、他の品目も含めた循環型社会を日本において作り上げることに寄与することを確信しております。



中古エアバッグの 販売は禁止 されています

ヤフーオークションに警告文を掲載

自動車リサイクル法では、中古エアバッグの再販を禁止しています。しかしながら、インターネットオークションなどで使用済自動車から取り外されたエアバッグが取引されている問題が今までありました。経済産業省では、こうした行為は違法である旨の警告文をヤフーオークション

等に警告文として掲載し、直ちにエアバッグの再販をやめるよう訴えています。「エアバッグについてはインターネットオークションでエアバッグが販売(取引)されているケースがあります。エアバッグの販売自体は絶対的に禁止されていませんが、自動車リサイクル法では解体自動車からエアバッグを取り外して販売することは禁止しています。その旨につきまして先般ヤフーオークションの方に注

意文を掲載していただきました。それをご覧になった方には法律をきちんと把握した上で対応していただきたいと考えております。」(経済産業省) ヤフーオークションでは警告文の掲載によるオークション利用者への通知の他にオークションにストア登録している部品販売業者に対して別途通知文を送付します。また、使用済自動車からのエアバッグの取り外しは解体業の許可を取得した事業者のみ行える行為ですので、解体業の許可を持たない一般ユーザーあるいは整備事業者の方の使用済自動車からのエアバッグの取り外しは法令違反となりますのでご注意ください。

中古部品 & リビルト部品 活用術 Vol.4

注文時に役立つ情報(外装部品編)

最近ワンボックスカーが人気車種の上位を占め、その影響からリアゲートなどの部品注文が増えてきています。また、新車オプションでスポイラーやホイールなどのドレスアップパーツも人気でいろいろなタイプの部品が出てきています。そこで今回は車種も種類も増えてきた外装部品の正確な注文方法とチェックポイントを紹介します。

リアゲート

最近ワンボックスカーやワゴンが人気車種なので需要が増えてきます。リアゲートを注文の際はまず「ルーフの高さ」これはノーマル、ミドル、ハイルーフ等があるので注意して下さい。型式指定・類別で確認できます。その他に注意する点はリアガラスの色、リアワイパーの有無、熱線の有無などがあります。

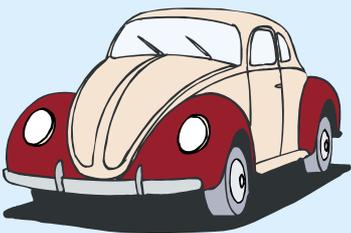
スポイラー

今はスポーツタイプの車以外でも装着車が増えてきたのがこのスポイラーで、中古パーツの注文も増えてきました。スポイラーを注文の際の注意点は1車種でもグレードによってデザインが違って来るので、その点をまずチェックして下さい。その他にはハイマウントランプの有無、1本モノなのか2本足、3本足などの特徴を詳しくお伝えいただければ完璧です!

ホイール

ホイールは大きく分けてアルミホイールとスチールホイールに大別されるのはご存知のことと思います。しかし、グレードによってアルミかスチールか、それともオプションのスペシャルホイールかが変わってきます。また、それに合わせてサイズも違う場合が多いため、注文する際は注意して下さい。マイナー前・マイナー後などでアルミホイールのデザインが変わってくる場合もあるので参考資料などをFAXやメールで送っていただく確認も早くできます。

同じ車種でも年式やグレードで違うパーツが付いていることはよくあることです。もし分からないことや不明な点がありましたら、何でもNGPのフロントマンにお尋ね下さい。細かい情報が分からない時もNGPのフロントマンが的確にアドバイスさせていただきます。このコーナーでは、今後もリサイクル部品に関するお役立ち情報を掲載していきます。



NGP通信欄

<組員情報変更>

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
関西	榊井商会	社名	榊井	18年12月1日

お詫びと訂正 NGPニュース189号4面「元組員紹介&ファンの声」の榊尾自動車部品 福原光宣取締役部長の名前が間違っておりまして、また榊尾自動車部品のNGP加入年数が5年とあるのは15年の誤りでした。関係者各位には大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。

訃報

NGP組員 岡崎車輛部品(株) 代表取締役 岡崎壽様の御母様岡崎利子様のご逝去され、JA岡山西大寺やすらぎ会館にて1月9日に告別式が行われました。お悔やみを申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



元気組合員紹介&ファンの声

株式会社福山セコ(広島県福山市)



藤原 麻正
代表取締役社長

中四国支部の同社は2002年5月にはISO14001認証も取得。環境問題へ貢献すると共に、この取組みを通じて社員の意識も向上し、成長したといえます。また大型トラックの部品流通、輸出を行っている点も特徴です。

「弊社の社員数は39名。中古タイヤショップ「パワフル」も経営し、この内の5名が勤めています。こちらは、そのままでは廃棄処分するしかないタイヤに思いの外一般ユーザーからのニーズがあることから、当初本社内にスペースを設けて始めた取り付け、販売サービスを独立した店舗としたものです。

また使用済車輛の入庫台数は月に1,000台程で、その95%程を解体処理、残りの5%程から生産、輸出を行っています。地域密着型企業として、オークションからの車輛仕入れは一切行っておりません。また、一般ユーザーからの仕入れも月平均30台程がコンスタントに入庫。当然、一般ユーザーから車輛を集めるための広告、宣伝にも福山市内を中心に力を割いており、インターネットや電話帳、タウン情報誌等のメディアを活用しています。

弊社のNGP加入は昭和62年1月。大石名誉顧問の呼びかけに先代社長が応える形での加入となりました。NGPIに一番助けられたのは鉄が暴落した時で、部品の販売により利益を上げることが出来たため、経営のバランスを取ることができ、非常に助かれました。」



株式会社福山セコ外観。広大な敷地と充実した設備を持ち、中古タイヤショップも経営

ファンの声

株式会社備後鋳金 (広島県福山市)



小林 秀教
取締役サービス部長

同社の創業は昭和47年。その当時、福山セコの先代社長の代から両社の付き合いは続いています。

「弊社は鋳金塗装を行う本社を中心に、販売、車検、整備を行うスズキ販売福山北店、販売や各種作業の受付窓口業務を行うカーコンビニ倶楽部ネットワーク店の3店舗を構えています。BSサミットにも加入し、24時間、365日ロードサービスの実施や、損害保険会社様17社の指定工場でもあるため、常にこれらを通じて入庫していただくお客様にご満足いただけるよう、対応に努力しています。特に接客面には力を注いでおり、顧客のニーズに合わせた修理、乗り換えも提案。車にかかわる全てを弊社で完結できるトータルカーサービスを目指し、日々実践しています。

現在は自動車を適切に解体処理する上で最後まで迅速に、またお客様に迷惑を掛けないためには、信頼できる自動車解体事業者にも車輛を任せますが、福山セコさんには非常に素早く正確に対応していただいております。スムーズに解体処理をしてもらえるため、使用済車輛の大半は福山セコさんに安心して任せています。また、リサイクル部品等の注文、検索にも協力していただき、品物のあるなしはもちろん品物の状態なども詳しく伝えてもらい、迅速に手配、配達してもらえるので大変助かっています。」



こちらはスズキ販売福山北外観。「ピンコグループ」3社でトータルカーサービスを行う

株式会社桃太郎部品(岡山県岡山市)



岸本 恭秀
専務取締役

中四国支部の同社の社員数は26名。解体、部品取り、輸出を担当しているのが14名です。現在の月平均入庫台数は420台程で、月当たりの部品生産点数は1,200点。在庫点数は8,000点です。

「弊社のNGP加入は平成6年9月。部品の流通システムがしっかりしていることに助けられています。NGPシステムも仲間もとても大切ですね。NGPグループが無かったら現在の弊社はありません。

弊社では地域密着を最重要視し、社名の『桃太郎』はその郷土愛の体現です。4年程前からは社員が自主的に顧客に向けて全て手書きの新聞も刊行しています。

また、常に意義を感じる仕事をしたいと考えており、コンプライアンス等、現在の業界動向をしっかりと見据え、これに対応するには技術以上に社内のコミュニケーションが重要だと考えて、解体現場でもコミュニケーション能力に秀でた女性社員が活躍しています。

平成15年にはISO14001も取得し、企業イメージや社員の環境への意識向上を図りました。現在は不要になった紙をシュレッダーで梱包資材にしたり、節電に積極的に取り組んでいます。設備でも生産性のみならず環境に配慮して行く姿勢です。

「当たり前」のことを「当たり前」にやる難しさを今感じており、知れば知るほど、「当たり前」のレベルが上がっていくのを目の当たりにしているからこそ、コミュニケーションが大切なのです。」



株式会社桃太郎部品外観。こちらも広大で、地域密着のスタイルが社名の「桃太郎」に表されている

ファンの声

マルケー自動車整備株式会社 (岡山県岡山市)



三好 一也
営業課長

指定工場である同社は創業が昭和48年。前身は昭和18年に始まり、事業者顧客が非常に多い地域密着型整備工場として長年に渡って絶大な信頼を築き上げてきた老舗中の老舗です。入庫車輛の殆んどが大型車で、現在の工場は平成6年に竣工。主に車検・整備・鋳金塗装に架装も行い、月当たりの総入庫台数は400台。従業員数は76名と非常に大規模です。またISO9001も取得、社員を積極的に社外研修に出したりと、時代の流れを取り込む努力を行っています。

「桃太郎部品さんとの付き合いは6~7年前からで、いわゆる『解体事業者』的でない明るさ、清潔さに好感が持て、部品の梱包も丁寧です。回答も早く、問い合わせた時点で部品の有無を教えてくれ、無い場合も良く探してくれ。その上傷やへコミの状況をきちんと説明してくれて、車体番号、形式番号からだけでは分からないカラーコードまでしっかり教えてくれ、教育が徹底されているのを感じます。お客様に安く仕上げで差上げるため、極力塗装せずに済むものが重宝しますから、この心配りは大変有難いですね。



マルケー自動車整備株式会社外観。数多くの運送事業者から絶大な信頼を得る老舗で非常に大規模

小型車の使用済車輛は全て桃太郎部品さんで解体してもらいます。弊社からも近く、融通が利きますし、処理も早いですから。また解体処理した車輛の元の持ち主が、その車輛が今どうなっているかを聞いてくる場合がありますが、桃太郎部品さんで解体処理してもらえば、きちんとやってくれているので安心です。」

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201